

稲 *Ine*

主宰 山田真砂年

令和2年9月、山田真砂年が神奈川県厚木市で創刊。師系・鍵和田穂子。今の自分の言葉で実感のある句をめざす。

令和二年六月十一日、鍵和田穂子先生の逝去によって「未来図」は解散し、後



「稲」
2022年9月号

継誌として幾つかの結社が創立されました。その中の一つが「稲俳句会」で、「未来図」からの方達と「未来図」以外から参加された方達により、令和二年九月に創刊しました。

創刊の挨拶に、「稲」の俳句は、「実感のある句」をモットーにしたい。俳句は詩、詩の方法は自由。写生もよし、抽象や象徴もよし、自分の思想・思いを述べるのも結構。た

「稲俳句会」では、東京、神奈川、千葉並びに長野で句会を催しています。

また、コロナによる自粛の所為だけでなく、距離的に句会に参加できない方、体力的に不安のある方のために、インターネットと郵便による二つの方法で通信句会を始め、好評を博しています。さらに、ホームページを通して入会した方もおられることから、結社のあり方も少しずつ変化して来ていることを感じています。「稲俳句会」は基本を守りつつ、新しさも取り入れて行きたいと思っております。



だ、如何なる俳句でも実感が感じられない言葉だけの俳句は良しとしない。気取らず、背のびをせず、自分の言葉で自分の詩を詠むことについて研鑽に努めたい。と述べました。その理念は三年目に入る今も変わりません。

さらに、コロナによる外出自粛などで俳句へのモチベーションが下がり、家の中で悶々としながら詠む俳句は、観念や言葉ばかりが先行しがちな俳句になりがちなので、心に感じたところから生まれる詩・俳句であるべく、次の言葉を掲げ、周知を図っています。

「俳句は詩です

詩は心のゆらぎ きらめきです
大きなゆらぎ 小さなゆらぎ
ほんの微かなゆらぎも詩です
さまざまな心のゆらぎを十七音で
表現したものが俳句です
今の己の身の丈にあった言葉で
表現しましょう」

◆同人二十名の一句

寒明けや並びし本の読み切れず	今村博子
初場所や鬚ゆがませて勝ち名乗り	岩本高子
みやごさ咲きかたまりて日が炎ゆる	北原昭子
シーツ干す母の背伸びや朱夏の風	伊藤翠
楽屋からそつと抜け出す三の酉	上田信隆
藁の火の贅をつくして初鰯	大坪正美
天板のすこしづつずれ置炬燵	國益悦子
道問へば月がきれいと言ふ人	小見戸美
水温む令和天皇誕生日	関口敦子
新聞に入試問題文字細か	滝代文平
山に雪田に野ざらしの耕運機	中村晃也
遠足の子の一人泣きみんな泣き	中村かりん
調律師音を探して春隣	沼田布美
今朝はもうぱつたり止んで蟬の声	浜田優子
五枚より遺影選びぬ沙羅の花	林恵美子
ここよりは私有地竹の皮を脱ぐ	張本弘子
袖子忘やさはさはさは播る今年竹	飛田小馬々
さまざまの木型に春日さす菓子舖	細井恵子
マスクした写真ばかりやさみだるる	牧園賀
駒が嶺の水音の透けし谷若葉	丸山時子